tc electronic®

RH750

ユーザーマニュアル

1 注意事項を必ずお読みください。
2 注意事項の書類は手の届くところに保管してください。
3 全ての警告をお守りください。
4 全ての指示に従ってください。
5 本装置を水気の近くで使用しないでください。
6 本装置の手入れは、乾いた布のみを使用してください。
7 換気に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
8 ラジエーター、ヒート・レジスター、ストーブ、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発する機器の近くに設置しないでください。
9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、旧式のコンセントの更新について最寄りの電気技師にご相談ください。
10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
11 本装置に設置するアクセサリーや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
12
カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するもののみを使用してください。カートを使用する際には、カートと荷物の移動による転倒や荷物の落下による事故にご注意ください。
13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本装置を長期間使用しない場合は、本装置の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
14 本装置の点検・修理は、必ず資格を持った技術者にご依頼ください。電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、雨や過度の湿度にさらした、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本装置に破損が生じた場合はサービスが必要です。
15 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いただけません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみ使用ください。

警告！
- 本体に水が垂れたり、はねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本装置の上に置かないでください。感電や火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付 3 芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 電圧を確認し、次の表に従って各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

電圧	プラグ規格
110-125 V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本装置は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- 本装置を商用電源側から完全に絶縁するには、電源ケーブルをコンセントから外してください。
- 電源プラグは容易に抜き差しができる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けないでください。感電の原因となります。

注意
本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本装置を操作する権利を失うことがあります。

サービスについて
- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- 修理点検は有資格者にのみ依頼してください。

JP

海外準拠規準に基づく記載 - EMC/EMI

EMC/EMI

本機器は FCC 規準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

これらの制限事項は、居住地域での設置時に生じうる有害な電波障害を規制するために制定されたものです。本機器は無線周波エネルギーを生成・使用しており、これを放射することがあります。指示に従った設置と使用を行わないと、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本機器の電源を落としてから再投入してください。障害を及ぼすことがわかった場合、次の方法で障害の解消を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向、設置場所を変更する
- 本機器と受信機の距離を遠ざける
- 本機器を受信機とは別の系統の電源回路に接続する
- 必要に応じて、販売代理店、または経験のある無線／ TV の専門技術者に問い合わせてください。

For Customers in Canada:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.
本 Class B デジタル機器は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

イントロダクション

重要 - 安全のための注意事項／
海外準拠規準に基づく記載 ..... a-b
目次 3
イントロダクション 5
クイック・セットアップ・ガイド 6

操作

フロントパネル 7
RC-4 14
リアパネル 15

付録

プロテクション（保護）モード 19
ヒート・プロテクション（熱保護）モード 19
シグナルフロー図 20
技術仕様 21

JP

溢れ出るパワーとトーン

この度は、RH750 をお買い上げいただき、ありがとうございます。RH750 は莫大なパワーと多彩なトーン機能を装備し、長年に渡ってご愛用いただけるアンプであると確信しております。

TC エレクトロニックの提唱する「ベースアンプ 2.0」のコンセプトは、ベーシストを機材のセッティングから解放して、演奏に集中できることを支援することを主眼としています。RH750 は、内蔵チューナー、3 つのセッティングを瞬時に切り替えられるプリセット機能、そして SpectraComp ／ TubeTone ／ TweeterTone ／ 4 バンド EQ と言った充実したトーン機能を搭載しており、トーン決めからチューニング、そして本番中の楽器の持ち替えや演奏スタイルの変更などをとまどいなく行える自由を提供します。

SpectraComp は、弦ごとのばらつきを抑えた均一なコンプレッションの効きで世界中のベーシストから賞賛を博している TC ならではのユニークなコンプレッサー。TubeTone はチューブのプリとパワーアンプ両方のサウンドを再現します。4 バンド EQ は極めて柔軟性が高く、各バンドの中心周波数も設定可能。また、インテリジェントに高域をコントロールする TweeterTone 機能も搭載し、比類の無い柔軟性を備えています。

3 つのセッティングを記憶させることができるプリセット機能は、楽器の持ち替えや演奏スタイルを変える際に重宝します。4 弦と 5 弦、またはビンテージ・フェンダーと現代的なアクティブ·ベースを持ち替えるといった場面では、あらかじめ作成しておいた各楽器用のセッティングを瞬時に再現できます。一本の愛機で全てをこなすベーシストにとっては、楽曲や演奏のスタイルによって 3 種類のアンプ・セッティングを自由に切り替えられることを意味します。

RH750 はクロマチック・ベース・チューナーを内蔵しています。 ほとんどのアンプはチューナー・アウトを装備していますが、これは外付けのチューナーが必要であることを意味します。RH750 では、チューナー情報が常時表示され、曲間にミュート・スイッチを押すだけでいつでもチューニングに入れます。

これらの機能は、750W ものパワーで鳴らしきることができます。

ENJOY!

製品の仕様ならびに本マニュアルの内容は、予告なく変更となる場合があります。最新版のマニュアルは www.tcelectronic.co.jp からダウンロード可能です。より詳しい情報やサポートをお求めの場合は、ウェブサイトか、TC のオンライン・サポート・サイト TC Support Interactive をご参照ください（http://tcjsupport.custhelp.com）。

tc electronic®

クイック・セットアップ・ガイド

一分でも早く音を出したい場合
次の手順でセットアップを行なってください。所要時間は、ほんの数分です。

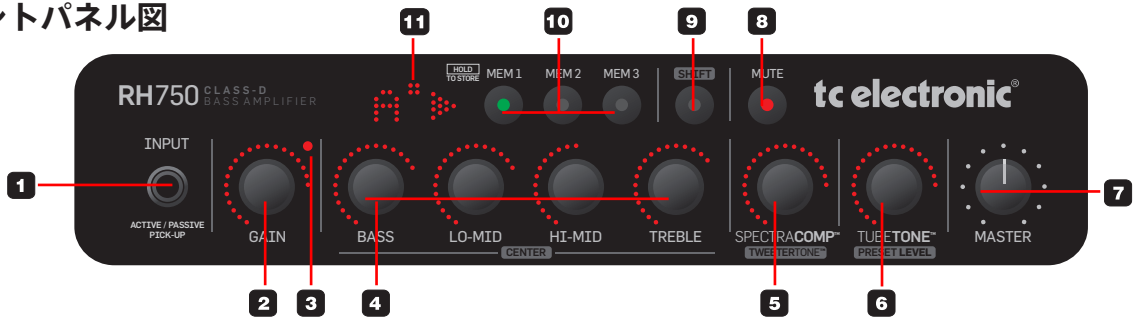
開梱
- RH750 アンプを外箱から取り出します。
- 次のアイテムが含まれていることをご確認ください。
  - RH750 アンプ本体
  - 電源ケーブル
  - RCA ピンジャック - ミニジャック変換ケーブル
  - マニュアル
- 搬送時の破損がないことを確認します。万一破損が確認された場合は、配送業者と発送元にご連絡ください。
- 製品の梱包材は保存しておいてください。これは、将来的な搬送時の備えとして使用できるのはもちろん、万一搬送時に破損が生じた場合にその証明として必要となります。

セットアップ
- アンプの SPEAKER OUT（スピーカー・アウト）端子からキャビネットの入力にスピーカー･ケーブルを接続します。スピコンか標準 1/4" ジャックのケーブルを使用できます。
- RH750 は、RS キャビネットの場合は 3 台、他の 8Ω のキャビネットの場合は 2 台までを接続できます。許容最低インピーダンス負荷は 4Ω です。
- 電源ケーブルを接続し、電源を投入します。RH750 のパワーサプライは 100 ～ 240 VAC の電圧に対応しています。
- ベースをフロントパネルのインプット・ジャックに接続します。
- GAIN（ゲイン）ノブでインプット・ゲインを調節します。
- MASTER（マスター）ノブでアウトプット・ボリュームを調節します。
- これで準備が整いました。

アクセサリー
RH750 との組み合わせには、次の製品が用意されています。
- RS210 ／ RS410 ／ RS112 ／ RS212 キャビネット
- RC4：4 スイッチ型のフットスイッチで、メモリーの切り替えとチューニング用のミュートを足下で操作できます。チューナー情報も表示されます。
- アンプを標準 19" ラックにラックマウントするための 19" ブラケット
- RH750 アンプリファイアーと RC4 フットスイッチ用のソフトバッグ
- RH750 アンプと RC4 用のフライトケース
- 一部 RS キャビネット用のフライトケース

これらの製品、ならびに TC の他製品の最新情報は、www.tcelectronic.co.jp でご覧いただけます。

フロントパネル図



1 — INPUT - インプット・ジャック
標準 ¼" ジャックの入力端子です。RH750 の入力段は、あらゆる種類のピックアップに対応する様に設計されています。

2 + 3 — GAIN ／ OVERLOAD - ゲイン・ノブ & オーバーロード LED
インプット・ゲインは、入力段をオーバーロードさせない範囲でできるだけ高く設定します。ベースを接続し、演奏しながら OVERLOAD LED が稀に点灯するまで GAIN ノブを上げます。ここから、LED が点灯しなくなるまで若干ゲインを下げます。ゲインを設定したら、MASTER ボリューム・ノブで音量を調節します。

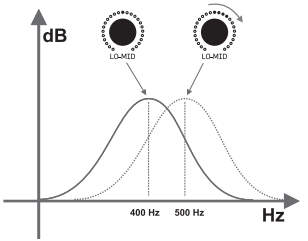
4 — TONE - トーン・コントロール
RH750 は BASS（ベース）／ LO-MID（ロー・ミッド）／ HI-MID（ハイ・ミッド）／ TREBLE（トレブル）の 4 つのトーン・コントロールを装備しています。これらのチューニングとキャリブレーションはベース用に緻密なチューニングがなされており、とまどうことなく自分ならではのサウンドを設定できるはずです。

ベーシストなら皆熟知している通り、どんなベースにも特有の特徴があります。RH750 のトーン・コントロールがご使用のベースに合った周波数を掴んでいないと感じられたら、4 つの EQ バンドの中心周波数を調節することができます。

センター周波数の変更
4 バンド全ての中心周波数を変更できます。この機能は、メーカーや機種によって、「パラメトリック・バンド装備」または「スイープ可能」などと表現されることがあります。

通常、BASS ／ LO-MID ／ HI-MID ／ TREBLE ノブは各 EQ バンドのゲインを設定します。EQ バンドの中心周波数を変更するには、一度 SHIFT ボタンを押してから、該当するバンドのノブを回します。

操作 - フロントパネル



例：
SHIFT を押してから LO-MID ノブを回すと、LO-MID バンドの中心周波数が変わります。

場合によっては、スイープ可能なトーン・コントロールは設定が面倒だと感じられるかもしれません。RH750 のロー・ミッド・バンドを例に、簡単な設定方法を紹介します。

- 設定したい周波数を見つけやすいように、まず LO-MID バンドをブーストします。大きくブーストするほど周波数を探りやすくなります。
- SHIFT ボタンを押します。ノブでバンドの中心周波数を設定することができるようになります。
- ベースを弾きながら、LO-MID ノブをゆっくりと回して、設定レンジ全体を探ります。
- 「ここを調節したい」という周波数ポイントが見つかったら、SHIFT ボタンを押して、周波数の設定からゲインの設定に戻します。ノブを回すと、指定した周波数のゲインが変わります。

RH750 が SHIFT モードにいる間、SHIFT ボタンのライトは点滅します。RH750 のフロントパネル操作を約 20 秒行なわないと、LED は高速に点滅した後に消え、SHIFT モードは自動的に終了します。

センター周波数とゲイン・レンジ

BASS 周波数レンジ	71 Hz ～ 1120 Hz（デフォルト設定：200 Hz）
BASS ゲイン・レンジ	-24 dB ～ +15 dB
（シェルビング・タイプ）	
LO-MID 周波数レンジ	100 Hz ～ 1600 Hz（デフォルト設定：400 Hz）
LO-MID ゲイン・レンジ	-24 dB ～ +15 dB
（固定 2.1 oct.）	
HI-MID 周波数レンジ	200 Hz ～ 3150 Hz（デフォルト設定：800 Hz）
HI-MID ゲイン・レンジ	-24 dB ～ +15 dB
（固定 2.1 oct.）	
TREBLE 周波数レンジ	400 Hz ～ 6300 Hz（デフォルト設定：4000 Hz）
TREBLE ゲイン・レンジ	-24 dB ～ +15 dB
（シェルビング・タイプ）	

5 — SPECTRACOMP ™ - スペクトラコンプ
SpectraComp ™コンプレッションの適用量を調節します。

SpectraComp ™はスペクトラル（マルチバンド）型のコンプレッションで、ロー／ミッド／ハイの周波数帯域それぞれに独立したコンプレッションを行ないます。マルチバンド・コンプレッションは、ダイナミクスやトーンを損なうことなくよりエフェクト感の少ない、スムーズなコンプレッションを行ないます。

SpectraComp ™は、ベース用にチューニングされた高度なコンプレッサーです。背景でどんな処理が行なわれているかを知りたい場合には、次の「SpectraComp ー詳細」セクションをご参照ください。

SpectraComp — 詳細
ゲイン・リダクション／コンプレッション・メーター
SpectraComp ™の使用時には SPECTRACOMP ノブ外周のライト・リングがコンプレッション・メーターとして作動し、コンプレッションの適用量を表示します。

自動メイクアップ・ゲイン
原理上、コンプレッションは信号の一番大音量の成分やピークを抑えます。そのため、多くの一般的なコンプレッションではレベルに食い込んでいる感覚、すなわちレベルの減少が感じられます。SpectraComp ™はコンプレッションによるゲインの減少を自動的に補正し、出力の音量を均一に保ちます。

スペクトラル・コンプレッションとフルバンド・コンプレッションの違い
現在市場に出回っているベース用コンプレッサーはほぼ例外なく「フルバンド」型で、周波数レンジ全体（20 Hz ～ 20 kHz）に対して同じ反応を示します。

ベースという楽器は、E（または B）弦から G 弦まで、極めて広いダイナミックレンジを持っています。通常のコンプレッサーでは、音のエネルギーが大きい E（または B）弦がコンプレッションの引っかかりとコンプレッション特性を決めてしまいます。多くの場合、G 弦にはコンプレッションがまったくかからなかったり、逆に G 弦で良好なコンプレッションが得られる設定にすると E 弦がつぶれすぎてしまいます。「コンプレッサーの設定は難しい」という一般的な認識はここに原因があり、事実、ベース用のコンプレッション設定は、厳しい条件の中でバランスを取る作業に他なりません。

RH750 はスペクトラル・コンプレッションという異なるアプローチでコンプレッションを行ないます。ロー／ミッド／ハイそれぞれの周波数帯域に独立したコンプレッションを行なうため、弦や音程によるばらつきが少なく、スムーズでエフェクト感の少ないコンプレッションが得られます。

操作 - フロントパネル

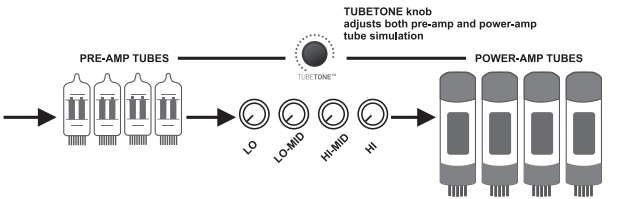
5 — TWEETERTONE ™ - ツイータートーン（SHIFT モード時）
多くのコンボアンプとキャビネットは、キャビネット背面にいわゆる「L パッド」HF（高周波数）コントロールを装備しています。このコントロールは通常キャビネットのツイーターのレベルを調節することで高域のレベルをコントロールします。

TweeterTone は、より直感的で優れた方式で高域をコントロールします。単純にツイーターのレベルを変えるだけではなく、サウンド的により耳に馴染みの良く、音楽的な高域のコントロールを行ないます。また、調節の度にキャビネットの背面に手を回す必要もなく、フロントパネルから直接操作できるメリットも見逃せません。

TweeterTone の設定は、プリセットに保存されます。サウンド全体の中の高域を調節することで、やわらかくウォームなヴィンテージ・サウンドからスラップ用のセッティングにプリセット・スイッチ一つで瞬時に移ることができます。

6 — TUBETONE ™ - チューブトーン
TubeTone ™は、RH750 のサウンドとキャラクターを調節することを可能とします。微量ではクラシックなチューブアンプの様なレスポンスを若干与え、設定を上げていくとより主張の強い特徴的なサウンドになり、さらに設定を上げると強いオーバードライブのかかったサウンドとなります。

多くのチューブ・シミュレーションとは異なり、TubeTone ™はプリアンプ・セクション全体（トーン・コントロール前）とパワーアンプ・セクション（トーン・コントロール後）の両方を再現します。この構成は、演奏のニュアンスに対するレスポンスまでをも含めて柔軟に本物のチューブ・サウンドを再現するだけでなく、トーン・コントロールの設定で TubeTone ™の反応を変えるといった本物のチューブアンプ特有の使い回しを可能とします。



TubeTone ™は、プリアンプとパワーアンプ両方のチューブ･シミュレーションを行ないます。

6 — PRESET LEVEL - プリセット・レベル（SHIFT モード時）
SHIFT を押してから TUBETONE ノブを回すと、選択されている MEM（メモリー／プリセット）の全体的なレベルを調節します。約 20 秒間 RH750 のフロントパネル操作を行なわないと、LED が高速に点滅した後に SHIFT モードは自動的に終了し、通常の動作に戻ります。通常、このノブは TubeTone ™エフェクトの適用量をコントロールします。

設定レンジは -12 dB ～ 0 dB です。

7 — MASTER - マスター・ボリューム
アンプ全体の出力レベルを調節します。ヘッドホン・アウトのレベルも同時に調節されます。

8 — MUTE - ミュート
スピーカーとバランス・アウトをミュートします。そのため、チューニング時には、自分の機材のみならず、PA への出力もミュートできます。

9 — SHIFT - シフト
ボタンを押すと SHIFT モードに切り替わり、フロントパネルに赤文字で記された二次的な機能を調節します。SHIFT モードで二次的な機能を持つコントロールは次の通りです。

通常時	SHIFT モード
EQ ゲイン（1 ～ 4）	EQ バンドの中心周波数
SPECTRACOMP	TWEETERTONE
TUBETONE	プリセット／メモリー・レベル

約 20 秒間フロントパネル操作を行なわないと、SHIFT モードは終了し、通常の動作に戻ります。通常、各ノブはフロントパネルに白文字で記された機能を調節します。

10 — MEM - メモリー 1 ／ 2 ／ 3
RH750 では、3 つのユーザー・メモリー領域に任意のセッティングを記憶させることができます。

セッティングの保存方法
— 各ノブを調節してお好みのサウンドを作ります。
— いずれかの MEM ボタンを約 2 秒間長押しします。
— すべての MEM ボタンが点滅し、設定が保存されたことを示します。
— 保存されている他の MEM セッティングを呼び出すには、呼び出したい MEM ボタンを普通に一度押します。

MEM に保存される内容
ライト・リングのあるノブの設定全て、すなわち、マスター・レベル／ SHIFT ボタンの状態／ MUTE ボタンの状態の 3 つを除く全ての設定が保存されます。

メモリー機能の必要性
多くのベーシストは一つのサウンドを固定で使い続けます。様々な設定を使い分けるのは少数派かもしれません。

特別プリセットの必要性を感じないベーシストにとっても、ベースを持ち替えたりピックアップ設定を変える、または別の会場で演奏したり演奏スタイルを変えるといった要因によって、アンプのセッティングを度々調節することはあるはずです。メモリー機能は、こういった場面にも極めて実用性の高い機能です。

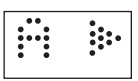
リモート・コントロール
RH750 には、別売オプションの RC-4 フットスイッチが用意されています。RC-4 は、メモリーの切替スイッチとミュート・ボタン、ならびにチューナーのディスプレイを搭載しています。

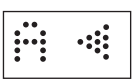
操作 - フロントパネル

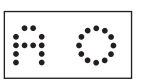
11 ― チューナー
RH750 は高精度フル・クロマチック・ベース・チューナーを内蔵しています。チューナーは、ミュート機能の状態に関わらず常時作動しています。ディスプレイの表示方法は次の通りです。

ディスプレイの左側には演奏している音程が表示されます。

ディスプレイの右側は、状況に応じて次の記号が表示されます。
– 音程が合っている場合には○が表示されます。
– 音程が低すぎる場合には、音程を上げるように促す右矢印が表示されます。
– 音程が高すぎる場合には、音程を下げるように促す左矢印が表示されます。


低い場合

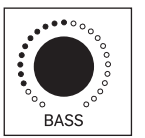

高い場合


正確な場合

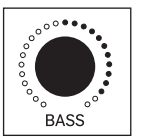
シャープ付の音程（C# ／ D# ／ F# ／ G# ／ A#）は次の通り表示されます。

例：A#

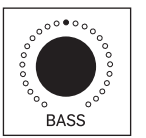
MUTE ボタンでアンプをミュートすると、通常のチューナー表示に加えて別の方式でもチューナーの情報が表示されます。BASS トーン・コントロールがピッチ・メーターに切り替わります。



低い場合



高い場合

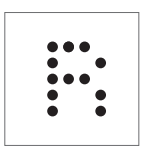


正確な場合

また、別売オプションの RC-4 フットスイッチにもチューナー・ディスプレイが用意されています。RC-4 フットスイッチを導入した場合、外部チューナーは必要ないといえるでしょう。詳細は、後述の「RC-4」セクションをご参照ください。

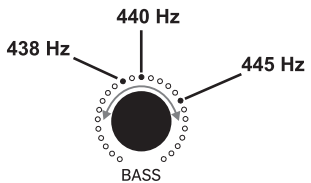
基準ピッチ
工場出荷時の基準ピッチは 440 Hz に設定されています。基準ピッチは、438 Hz ～ 445 Hz の範囲で調節できます。

基準ピッチの設定方法
- RH750 の電源がオンの場合には、一度オフにします。
- MUTE ボタンを押しながら電源を投入します。
- ディスプレイに「R」と表示され、チューナーが Reference（= レファレンス／基準）モードで起動したことを示します。



チューナー・レファレンス・モード

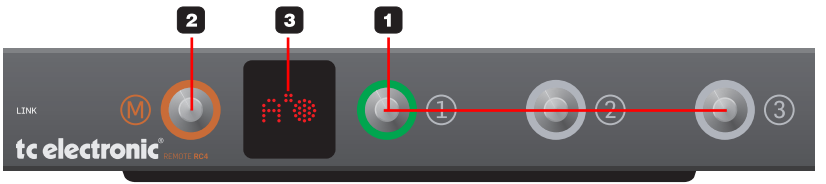
- BASS ノブでチューナーの基準ピッチを調節します。センターは 440 Hz で、LED が左右一つずれるごとに 1 Hz ずつ変わります。例えば、基準ピッチを 438 Hz に変更したい場合には、LED が二つ左に移動するように BASS ノブを反時計周りに回します。



- MUTE ボタンを押すと、チューナー・レファレンス・モードは終了します。

NOTE 基準ピッチの設定は電源を落としても保持され、電源を再度投入した時にも直近の設定は変わりません。

JP



別売オプションの RC-4 フットスイッチは、メモリーの切り替え（MEM 1／2／3）とチューナー用ミュートを行なうためのフットスイッチで、チューナー情報のディスプレイを装備しています。電源は RH750 アンプから供給されるため、別途にパワーサプライを接続する必要はありません。

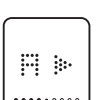
1 ― メモリー・スイッチ 1／2／3
スイッチ脇に記された MEM（メモリー）番号に保存されているセッティングが呼び出されます。選択したメモリーのスイッチ外周がグリーンに点灯します。

- メモリー領域にセッティングが保存されていない場合、そのメモリーは呼び出せません。
- フロントパネル操作でメモリー内容に変更を加えると、グリーンのライトは消えます。これは、設定がメモリー領域に保存されている内容と異なることを示します。

2 ― M（MUTE）- ミュート・ボタン
RH750 の出力をミュートします。チューニング時や、ベースの持ち替えでインプット・ジャックのケーブルを抜き差しする際に便利です。

TIP MUTE ボタンは RH750 のバランス・アウトからの出力もミュートしますので、ライブでベースが PA に接続されている場合にも使用できます。

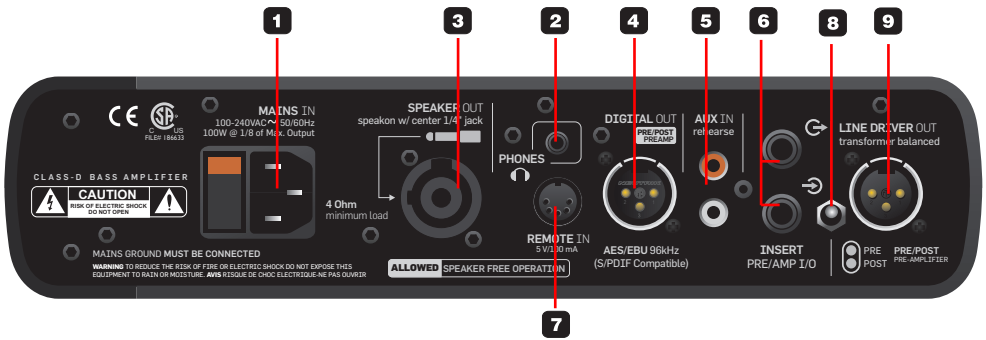
3 ― ディスプレイ
チューナー情報をいくつかの方法で表示します。ディスプレイ左側には、検知された音程が表示されます。ディスプレイ右側には、状況に応じて異なる記号が表示されます。音程が合っている場合には○が表示されます。音程が低すぎる場合には、音程を上げるように促す右矢印が表示されます。音程が高すぎる場合には、音程を下げるように促す左矢印が表示されます。これらの表示に加えて、ディスプレイ下部には 9 つのドット（点）が用意されており、検知された音程のズレ幅を表示します。チューニングが合っている場合には、センターの点が点灯します。


低い場合

高い場合

正確な場合

リアパネル図



1 — MAINS IN - 電源入力／電源スイッチ
RH750 は自動感知型のスイッチモード･パワーサプライを搭載しており、ヒューズや設定変更の必要なしに 100 ～ 240 ボルトで作動します。接続には標準 IEC 3 ピン電源ケーブルを使用します。ツアー等での使用に便利です。

他の機材（PA 等）と RH750 の電圧差が生じるのを避けるためには、電源のグラウンド・ピンが正しく結線されている必要があります。

2 — PHONES - ヘッドホン・アウト
ヘッドホン用の 1/8" ミニジャックです。このスタジオ・クオリティのヘッドホン・アンプは、出力に微量のスピーカー・フィルターが加えられており、ヘッドホンを装着しながらの演奏時にも違和感のないサウンドを実現します。

ヘッドホン・アウトからはリアパネルの AUX IN（「リハーサル」）インプット・ジャックの信号も出力され、iPod® などの MP3 プレイヤーやコンピューターのサウンドカード等でバッキング・トラックを再生させながら演奏できます。自宅での個人練習や本番前のパートの最終チェックなどに便利です。

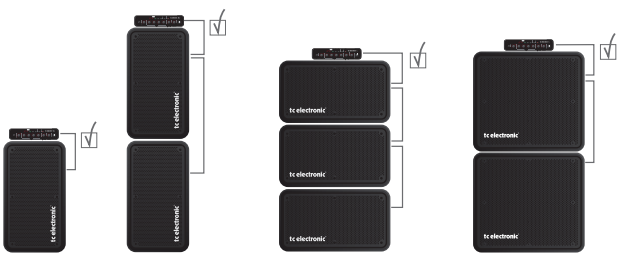
NOTE RH750 はスピーカー・キャビネットを接続していない状態でも使用可能です。

JP

操作 - リアパネル

3 — SPEAKER OUT - スピーカー・アウト
RH750 をキャビネットに接続するためのコンボ・ジャックです。スピコンまたは標準 1/4" フォーン端子のスピーカー・ケーブルを使用できます。楽器用ケーブルは絶対に使用しないでください。

RS キャビネットの場合は 3 台、他のキャビネットの場合は最低 4 オームの組み合わせを接続できます。



4 — DIGITAL OUT - デジタル・アウト
RH750 の出力をコンピューターのオーディオ・インターフェイス等のデジタル機器に接続するためのデジタル出力端子です。Pro Tools、Logic 等の DAW にベースを直接録音する際に使用できます。フォーマットは 24 ビット／96 kHz の AES/EBU 形式です。リアパネル LINE DRIVER OUT 端子の右側にある PRE/POST スイッチで、アンプのどの段階でデジタル出力を行なうかを設定できます。信号は AES/EBU の左右チャンネル両方から出力されます。

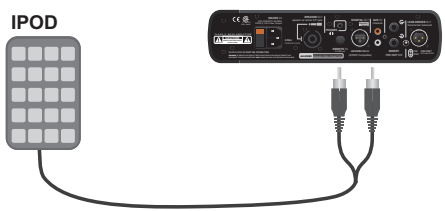
<u>レコーディング用の設定</u>
RH750 のデジタル出力から直接レコーディングを行なうには、次の手順で操作を行ないます。
- RH750 の DIGITAL OUT 端子から DAW の入力にケーブルを接続します。
- DAW を外部クロックに使用する設定にします。
- DAW 側の録音ボタンを押し、ベースを演奏します。

S/PDIF との互換性
S/PDIF インターフェイスでレコーディングを行う際には XLR-RCA コンバーターによる変換のみで接続できることがありますが、AES/EBU と S/PDIF の規格はインピーダンスと物理的な信号レベルの規定が異なります。そのため、接続先の機器によっては互換性の問題が生じることがあります。

アナログ信号のレコーディングを行ないたい場合は、RH750 の LINE DRIVER OUT ジャックも使用できます。

5 ― AUX IN - リハーサル用ステレオ AUX インプット

ここに入力した信号は、RH750 の PHONES 端子からベースの信号とミックスして出力されます。個人練習時の楽曲確認やメトロノーム／リズムマシンの接続に使用できます。付属のミニジャック - RCA ケーブルを使えば、リハーサル用に iPod® や iPhone® 等の民生再生機を接続できます。



6 ― INSERT PREAMP I/O - インサート・プリアンプ I/O

RH750 のプリアンプ・セクション（SpectraComp ™、トーン・コントロール、TubeTone ™モジュールを含む）とパワーアンプ・セクションの間に外部機器を挿入できます。通常のシリアル（直列）型エフェクト・ループとして使用でき、モジュレーション・エフェクト等を接続できます。

アンプ 2 台のリンク

このインサートは、RH750 を 2 台接続する用途にも使用できます。

- 1 台目の RH750 の PRE-AMP OUT（上側）端子から、2 台目の RH750 の POWER-AMP IN（下側）端子に楽器用標準 1/4" ケーブルを接続します。
- 1 台目の RH750 の INPUT ジャックにベースを接続し、通常にセッティングを行ないます。
- 両方のアンプの MASTER ボリューム・ノブの組み合わせで音量を調節します。これで、両方のアンプの出力から同じサウンドが出力され、莫大なパワーの出力を得られます。

JP

操作 - リアパネル

7 — REMOTE IN - リモート・イン
別売オプションの RC-4 リモート・フットスイッチを接続するための端子です。RC-4 は、3 つのメモリーとミュート機能の切り替えが行なえ、チューナー用のディスプレイも装備しています。

RC-4

8 — LINE DRIVER OUT - バランス・ライン・アウト
ライブ時に RH750 の出力を PA に送る、またはスタジオでレコーディング機器に接続する時に使用します。

RH750 リアパネル LINE DRIVER OUT 端子の隣にある PRE/POST スイッチで、アンプのどの段階を出力するかを設定できます。

TIP MUTE ボタンは RH750 のスピーカーとヘッドホン・アウト出力をミュートしますので、ライブでベースが PA に接続されている際にチューニング時のサウンドが PA に送られてしまうのを防げます。

RH750 のバランス出力は、ガルバニック絶縁がなされた変成器結合による音質優先の設計がなされています。このアクティブ型の設計は一般的な DI ボックスを遥かに凌ぐ性能を持ち、長距離配線に対するドライブ能力に優れています。ファンタム電源は必要としません。

換気
RH750 の黒い冷却プレートは絶対に塞がないでください。
換気が不足すると、アンプの温度が過度に高まる可能性があります。

NOTE RH750 の換気が不足すると、本体がヒート・プロテクション（熱保護）モードに切り替わることがあります。この場合、フロントパネルのディスプレイには「H」と表示されます（詳細は次ページ参照）。

プロテクション（保護）モード

RH750 はインテリジェントな保護システムを搭載しており、本体の扱いを誤った場合や過酷な環境で生じうる誤動作や故障を可能な限り防ぎます。

General Protection Mode - 一般プロテクション（保護）モード
RH750 がプロテクション（保護）モードに入ると、ディスプレイ上に「P」と表示されます。

何らかの理由で回路ショートが生じると、本体はプロテクション・モードに切り替わります。プロテクション･モードに入るとスピーカー出力はミュートされ、ショートによるスピーカーの破損を防ごうとします。バランス・アウト、デジタル・アウト、エフェクト・ループは音を通し続けます。

問題を解決するには、まずは RH750 の電源を落とし、1 分間待ちます。再度電源を投入しても「P」と表示され続ける場合は、正規サービスセンターに本体の点検を依頼してください。

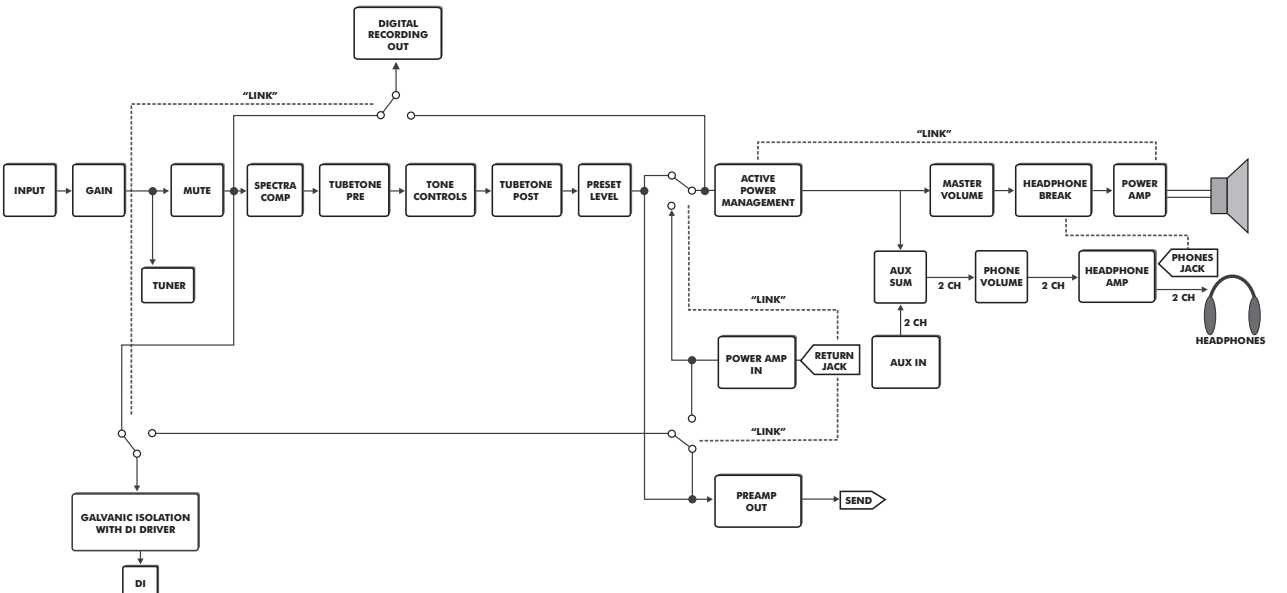
Heat Protection Mode - ヒート・プロテクション（熱保護）モード
RH750 がヒート・プロテクション（熱保護）モードに入ると、ディスプレイ上に「H」と表示されます。この状態が生じるのは稀ですが、次の過酷な環境下で生じることがあります。

a) 使用環境が過度に高気温の場合、または正しく換気が行なわれていない場合。

b) キャビネット、またはキャビネットの組み合わせは 4Ω 以上の負荷となる必要があります。RS キャビネットを使用する場合は、最大 3 台を接続できます。他ブランドの 8Ω キャビネットの上限は 2 つです。例えば､2 オーム（またはそれ以下）のスピーカー構成で長時間にわたって大音量を鳴らした場合、アンプは過熱してヒート・プロテクション・モードに入ります。

<u>いずれの場合にも、次の処置を講じてください。</u>
— アンプの電源を落とします。
— 問題の原因を解決します。
— アンプが冷却するまで数分の時間を与えます。
— 再度アンプの電源を投入します。

付録 - シグナルフロー図


DIGITAL RECORDING OUT
"LINK"
INPUT
GAIN
MUTE
SPECTRA COMP
TUBETONE PRE
TONE CONTROLS
TUBETONE POST
PRESET LEVEL
ACTIVE POWER MANAGEMENT
"LINK"
MASTER VOLUME
HEADPHONE BREAK
POWER AMP
TUNER
AUX SUM
2 CH
PHONE VOLUME
2 CH
HEADPHONE AMP
PHONES JACK
2 CH
HEADPHONES
"LINK"
2 CH
POWER AMP IN
RETURN JACK
AUX IN
"LINK"
GALVANIC ISOLATION WITH DI DRIVER
PREAMP OUT
SEND
DI

インプット・セクション

入力コネクター	1/4” ジャック
入力インピーダンス	1 MΩ ／ 100 pF
ゲイン・レンジ	-96 ～ 32 dB

トーン・コントロール

ベース	デフォルト中心周波数：200 Hz（レンジ：71 ～ 1120 Hz、ゲイン：+15 ／ -24dB）- シェルビング・タイプ
ロー・ミッド	デフォルト中心周波数：400 Hz（レンジ：100 ～ 1600 Hz、ゲイン：+15 ／ -24dB）
ハイ・ミッド	デフォルト中心周波数：800 Hz（レンジ：200 ～ 3150 Hz、ゲイン：+15 ／ -24dB）
トレブル	デフォルト中心周波数：4000 Hz（レンジ：400 ～ 6300 Hz、ゲイン：+15 ／ -24dB）- シェルビング・タイプ
TweeterTone	-12 ～ 12、L-PAD キャビネット再現
TubeTone	0 ～ 12、チューブアンプ再現
SpectraComp	3 バンド・スペクトラル・コンプレッション
プリセット・レベル	-12 ～ 0 dB ゲイン・アッテネーション
ユーザー・メモリー	3 メモリー領域、ミュート & マスター・レベルを除く全フロントパネル・コントロールを保存

チューナー

チューナー・レンジ	クロマチック、A0（27.50 Hz）～ E5（659.26 Hz）
ミュート	スピーカー、ヘッドフォン、バランス・アウト
マスター・レベル・ヘッドホン・アウト	スタジオ・クオリティ・ヘッドホン・アンプ
インピーダンス	40 ～ 600 Ω
電源	ユニバーサル型 100 ～ 240V、50 ／ 60Hz (100 W @ 1/8 Power)
スピーカー・アウト	スピコン／ 1/4” 端子兼用

定格パワー	750 W（1200 W ピーク）
バランス・アウト	トランスフォーマー・バランス XLR、プリ／ポスト・プリアンプ切り替え
最大出力	+0 dBu
最適負荷インピーダンス	600Ω
プリアンプ・アウト	1/4” 端子、バランス出力、最大出力レベル＝ +8 dBu
パワーアンプ・イン	1/4” 端子、バランス入力、インピーダンス＝ 10 kΩ、最大入力レベル＝ +8 dBu
リハーサル・インプット	RCA ピン、左右入力、iPod® 接続対応
デジタル・アウト	XLR バランス、AES/EBU、24 ビット
リモート接続	5 ピン DIN、シールド・ケーブル

使用／保存環境

温度	0 °C ～ 50 °C ／ -30 °C ～ 70 °C
湿度	最大 90%（結露なきこと）
寸法	275 x 290 x 66 mm
重量	4 kg
仕上げ	アノダイズ・アルミニウム・フロント プレートならびにペイント・スチール・シャーシ

仕様は予告なしに変更となることがあります。

JP

tc electronic®